

ロシア・ウラジオストク旅行(2018年5月)

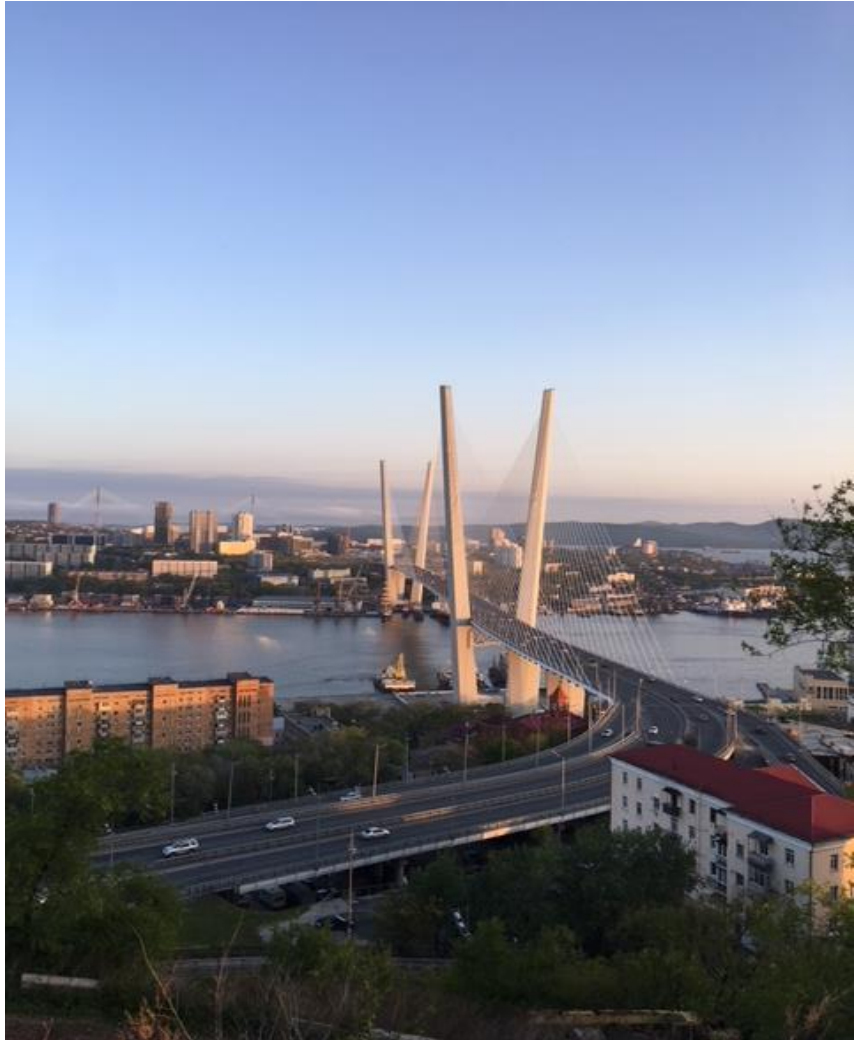
ウラジオストクは初めての訪問地である。1985年にモスクワとレニングラード（現サンクトペテルスブルグ）を訪問したことがあるので33年振りのロシア訪問である。

人口61万人の沿海州都でシベリアの玄関口。この街は1876年に明治政府が貿易事務所（領事館）を置き、1889年のシベリア鉄道建設では日本人出稼ぎ労働者が多数参加した歴史がある。しかし1945年から要塞都市・軍港としてほぼ閉ざされた都市であった。観光地として海外に解放されたのは1990年のソ連崩壊以降（注1）である。

そして2012年APECサミット（注2）開催を契機に国際空港、橋、道路、大学などのインフラ整備が急速に進んだ。2015年から毎年9月開催の東方経済フォーラム（注3）にはプーチン大統領と安倍総理が出席され、急速に経済発展している。

今回旅行のきっかけは、昨年社団法人ディレクトフォース（DF）の研究会で知り合った

仲間S氏がロシア貿易に通じており、ビジネスと観光を兼ねて企画頂いたものだ。今回は5人のグループ旅行となった。成田空港から直行便が毎日あり2時間で到着できる（注4）。尚ルーブル通貨レート（P）＝1.8円であった（注5）



1、 5月26日(土)

成田発15:40発シベリア航空便（S7）でウラジオストクには18:40着（時差+1時間）。空港着陸前の眼下の風景は緑の広大な森林であった。はげ山はなかった。

入国審査は30分弱ですみ、スムーズに出国できた。33年前のソ連では軍服の管理官にジロジロ見られ1時間以上の入国手続きだった。隔世の感である。空港の外は肌寒かった。気温は15度ぐらい。また空港は数年前新たに完成した。（写真ご参照）



空港内には多数のATMがあったので出金を試みた。クレジットカードは不可だったが、デビットカードで引出せた。

空港からウラジオ市内までは50数キロ、渋滞は無く約1時間弱で市街に着いた。市内の「鷹ノ巣展望台」に立ち寄った。市街が一望できる絶景ポイントで韓国の観光客が多かった。(写真参照)



Hotel PRIMORYE (写真参照)には21時頃到着した。日本語で「沿海州ホテル」という意味だ。

その後ホテルに隣接するロシア料理



のレストランで遅い夕食をとった。ロシア料理といえばピロシキやスープなどが有名だが、ロシア通の助言で野菜サラダとロシアワインと肉料理を注文した。その美味なること久しぶりの感動であった。しかも代金は一人3千円だった。

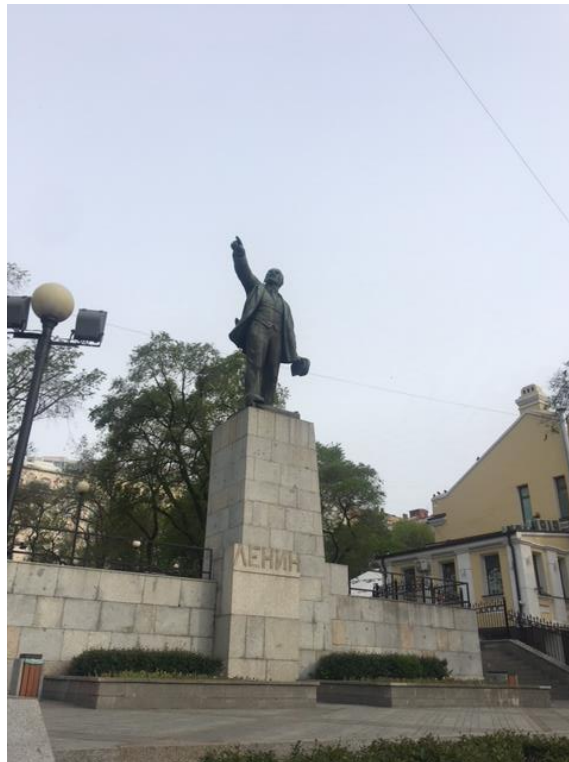
ホテルは日本のビジネスホテル並みの広さでバストイレ付。TVは50チャンネル程あり、海外映画やドラマもあったが全てロシア語。またWiFiサービス完備だが、回線細く部屋ではあまりワークしな

かった。受付けロビー周辺では通信環境は良かった。写真の送信不能だったがLINEでは日本に送れた。

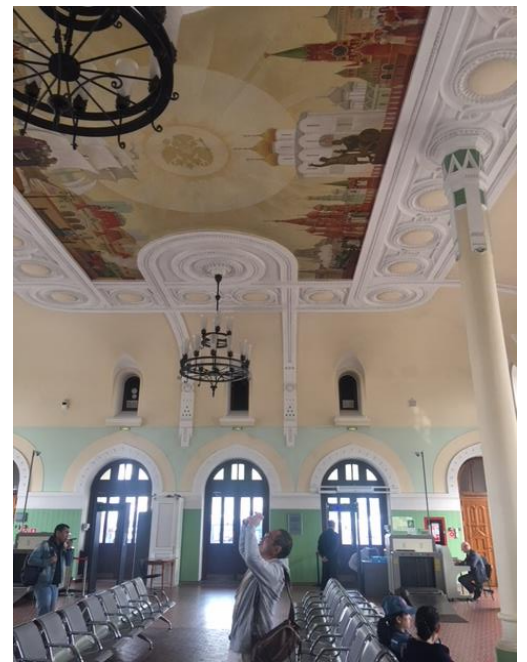
27日(日) 市内観光

7時起床してホテル内で朝食を済ませます。グループ仲間のM氏と散歩しました。日曜日の朝なのか人通りはまばらであった。徒歩10分程でウラジオストク駅に着いた。

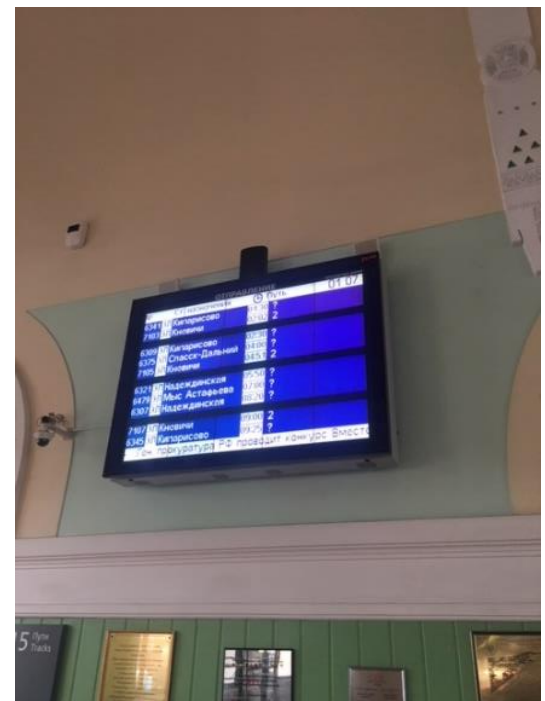
駅前広場にはレーニンの銅像があった(写真参照)。駅待合室の天井には由緒ありそうな絵画があった。駅舎に入るには厳し



いセキュリティチェックを受けた。モスクワ行きの発車時刻掲示板が印象的だった(写真参照)。この駅がモスクワまで7000kmに及ぶ世界最長のシベリア鉄道の発着駅である。



9時にホテルロビーに集合して観光開始。まずウラジオストク市の南端にある灯台に行った。天気曇りで寒々とした風景だった。そこからウラジオストク港に架かる黄金橋が見えた。2012年のサミット開催で整備されたものだ。



次にアルセーニエフ記念博物館に行った。アルセーニエフは黒沢明監督の映画「デルス・ウザーラ」の主人公だ。この軍人且つ探検家が発掘した遺跡出土品が展示されていた。

次に沿海州国立美術館に行った。ロシアは19世紀、英仏に並ぶ強国であったので、モスクワの博物館や美術館は大英博物館やルーブル美術館に並ぶものだ。その一部がこの美術館に展示されている。その水準に感動した。モナリザの微笑に比肩するような美人画は特に印象に残った(写真参照)



ランチは **SACIVA**(グルジア料理店)に行った。その料理は昨晚食べたロシア料理と同じく感動するものだった。新鮮な野菜と肉料理とチャチャというアルコール飲料(45度以上)が絶妙に調和して極めて美味かった。(写真参照;野菜サラダと肉)



食後は**潜水艦博物館**を見学した。ウラジオストクには今でもロシア太平洋艦隊司令部がある。先の戦争末期のソ連軍の満州侵攻では多数

の軍人が滞留する前線基地となった。しかし現在市街に軍人の姿は少なく、要塞都市という面影は薄かった。

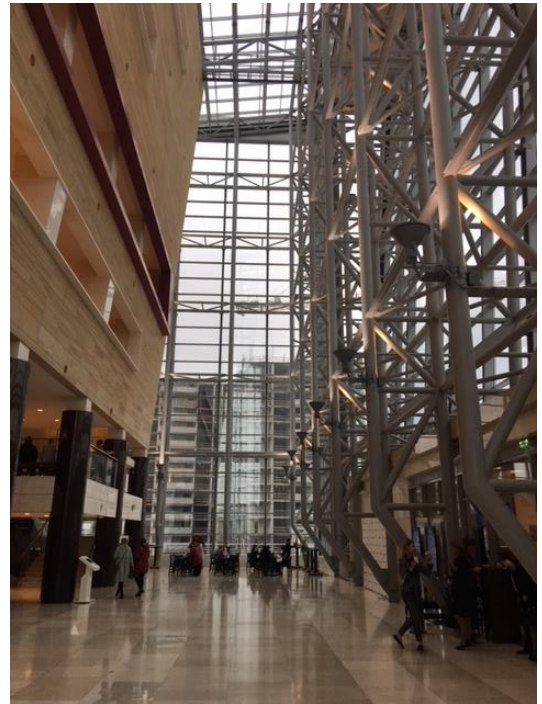


17時からマリンスキー劇場(注6)にてオペラ「魔笛」を鑑賞した。

楽団員を含め総勢100人の大部隊であり、演目「魔笛」は現代風にアレンジされていた。ロシア語なので全く会話は不明だったが、上演時間は3時間で飽きることはなかった。

この劇場は2012年APEC開催に合わせ完成された。1500人収容可能な劇場で、オペラとバレエが上演されている。右の写真は劇場ロビーである。

チケットはロシア人900Pで、外国人は1350Pと超格安だった。



2、 28日(月) ビジネス関係先訪問

9時半日ウラジオストクセンターの向井所長(元丸紅)を訪問。

沿海地方の経済概況と日本企業の進出状況について説明を受けた。ここはロシアの中で最も親日的な街だそうで、2015年から毎年安倍総理が訪問している所以对日感情が大変良いとのことだ。治安も良く国際観光地としてこれから期待できると思った。

11時 SUMOTORI

(スモートリと呼ばれる)を訪問。

同社社長が2017年12月に突然ウラジオストク市長に任命されたので、奥様が社長となった。中古車の輸入事業で成功し、現在はマツダ、スズキ、トヨタなど日本車の輸入が本業であるが、旧空港の再利用、子供用レーシングサーキット場(写真参照)などの事業も展開している。社名の日本語読みが「すもうとり」なので、社屋入口にある金属製のオブジェ(写真参照)は印象に残った。





同社は、日本企業の荒井商事とJV会社を設立し、日ロ友好事業の一環である中古自動車廃車のリサイクル工場建設計画(TERMINATOR)を進めている。2018年中に工場竣工予定である。



15時 ラチミール社訪問 (写真参照)。

ウラジオストク地区最大の肉ハムソーセージ製造会社である。製品の試食と日本への輸出拡大計画について意見交換した。非常に美味且つ安いのが、日本への輸出量がまだまだ少なく空輸しているのが現状とのことだった。コンテナ輸送が可能な受注となれば飛躍的に増大するだろう。



17時半 日本総領事による歓迎夕食会。

(NOVIK COUNTRY CLUBにて)

ルースキー島に完成した極東連邦大学を越えてルースキー島の入江に建設された砲台視察に行った。その後ヨットハーバーの敷地内の高級レストランで夕食した。観光客や地元セレブが集う高級リゾート施設だった。ここにゴルフ場が無いのは残念だった。

笠井総領事から当地経済事情、ロシア企業の経営、日ロ経済協力PJの概要など丁寧に解説頂いた。沿海州地区の経済発展の可能性を実感した。

因みに総領事館には現在15人余の外交官が駐在しているが、半数近くが農林省・国土交通省など他省庁からの出向者だった。



3、 29日(火) 帰国

午前中ウラジオストク市とアルチョム市内の青空市場や大型ショッピングモールで地元食品・雑貨など土産品を物色した。お酒、牛、豚、羊、鹿肉とハムソーセージが豊富だった。

12時に空港到着し、空港内で軽食。この空港はシンガポールのチャンギ空港が建設運営しており快適である。

13:20発で14:20成田に着いた。

4、 雑感

(ア) 観光資源は極めて豊富だ。軍事的遺産、未開発の自然など歴史と文化遺産が多く、海と広大な森林が魅力。なお産業は鉱業、農業、漁業、観光業、海運業、林業が中心だが、食品などの加工業も成長しつつある。

(イ) 成田から約2時間で訪問出来る最も近い西洋都市。ウクライナ地方と中央アジアからの移住者が多い。2016年の沿海州を訪問した外国人は、中国42



万、韓国 5 万、日本 0.8 万人。逆に沿海州から外国への訪問先は、中国59万、韓国12万、香港2.2万、日本2.1万人だった。

- (ウ) ネット通信は中国と異なり、グーグル、マイクロソフトなど検索ソフトが自由に閲覧できた。しかし通信環境に難があり、ホテルなど通信可能なエリアは限定されている。
- (エ) 市内を走る自動車は90%が日本製中古車。バスは韓国製の中古車だった。
- (オ) 最高のホテルは現代ホテル(韓国資本経営)だが最近ロッテに売却されたようだ。現代財閥は造船業以外の事業を撤退した由。日系ホテルの進出計画も聞かれた。
- (カ) 森林の中にはダニがいて刺されると死亡する。帽子が不可欠とのこと。

5、 (注) の解説

- ① 1917年社会主義革命によりロシア王朝が崩壊し、ソビエト連邦(ソ連)が成立した。レーニンは社会主義革命の英雄だが、ウラジオストクを訪問したことは無かった。1990年ソ連は崩壊しロシア共和国になった。ウラジオストク市の観光化はここ数年の出来事だ。
- ② APECサミットは、アジアアセアン地区首脳が4年に一度参加する会議。開催国は国の威信を賭けインフラ整備を実施する。2016年北京開催のAPECは壮大な式典だった。
- ③ 東方経済フォーラムは、2015年9月から始まった両国首脳会議で、毎年1回開催されている。2016年の第2回フォーラムで安倍総理から「ウラジオストクを快適・清潔で住みやすく、活動しやすい都市づくり」のモデル都市とすることが提案された。
- ④ 日本から成田空港から週7便出て、関西空港からは週2便出ている。尚ソウル経由週35便あるのでソウル便も大変便利だ。
- ⑤ ルーブル・レートは、3年前は3円、10年前は4.5円だった。ウクライナ戦争でロシアは現在欧米諸国から経済制裁を受けており暴落ししている。エネルギー資源が高騰するとルーブル高になる傾向がある。
- ⑥ マリンスキー劇場は、サンクトペテルスブルグのオペラ劇場の分館である。本館はロンドンパリのオペラハウス並みの絢爛豪華さである。ここでは毎月10回以上バレーとオペラが上演されている。日本なら3万円以上はするが当地では破格の値段で鑑賞できる。

(2018.6 記す)